

金沢大学法学類 2018年度「法思想史」期末試験
6月13日2限実施/ 試験時間：60分/ 出題：足立英彦

以下の問から一つを選んで答えなさい。答えの分量は答案用紙1枚程度とする。

1. 法典論争及び歴史法学派について
2. いわゆる「概念法学」について
3. イェーリング（Rudolf von Jhering）の主張の変遷について
4. ヘック（Philipp Heck）の利益法学について
5. リスト（Franz von Liszt）「刑法における目的志向」（1882年）について
6. 自由法運動について
7. ラートブルフ（Gustav Radbruch）の法概念について

2018 年度 Q1「法思想史」（3-4 年生対象，2 単位）期末試験の講評

足立英彦

6 月 13 日（水）1 限に実施した法思想史の期末試験は，事前に予告した 7 つの間から一つを選んで答える方式で実施した。履修者は 1 名であり（「基礎講義」として履修した院生 1 名に対しては別途口述試験を課した），この履修者は問 1「法典論争及び歴史法学派について」を選択し，講義の内容（法典論争の歴史的背景（フランス民法典の成立とドイツにおける法の分裂状況），法典編纂派のティボー（Thibaut）の主張の内容，それに対するサヴィニー（Savigny）の反論の内容，歴史法学派の説明（ゲルマニステンとロマニステン））を的確にまとめ，論述してくれたので S の評価をした。

以上